

芝学園 講堂

Siba Gakuen Auditorium

No. 10-023-2012作成

改修・保存
学校

発注者	学校法人芝学園	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	清水建設株式会社一級建築士事務所 SHIMIZU CORPORATION Design Division	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	清水建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

Value Creation — 新しい価値の創造 —

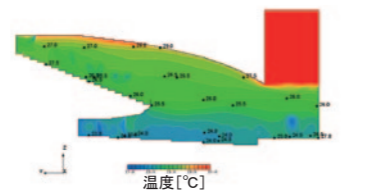


新しい価値の創造

学園創立60周年を記念し1966年に竣工したシンボリックな外観を持つ芝学園の講堂の改修です。老朽化と機能面の問題から改善が必要となり、講堂として時代に合った価値を持ち、従前と変わらぬ愛着を持って使い続けられる講堂を目指し、学園やコンサルタントと一体となって実現させた講堂のリノベーションです。既存構造体の健全性と高い耐震性を活かし、躯体には余り手を加えず既存躯体の力強いイメージを活かしながら木のぬくもり・柔らかみを感じる空間を目指しました。また、既存ホールは2.0秒を超える残響時間という音響効果上の課題も抱えており、改修後1.03秒の残響時間を実現し、合わせて音圧・明瞭度のバランスのとれた音響空間を可能としています。

年間を通して快適な講堂

本建物は、元より暖房のみ設置され現在としては温熱環境上の不自由さも抱えています。そこで既存の天井吹出方式から壁面吹出方式へ変更することにより、快適性と省エネ性を可能とする居住域冷暖房設備を設置しました。また、講堂の音楽演奏等にも配慮し、壁面吹出口を音響反射板、吸音材と一体としたデザインとすることで残響時間の確保も可能とし、意匠性・機能性共に配慮したものとしています。

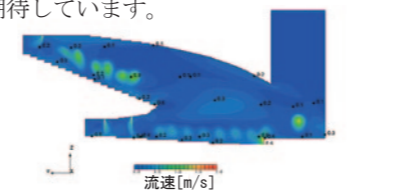


冷房時空調シミュレーション 室温[°C]

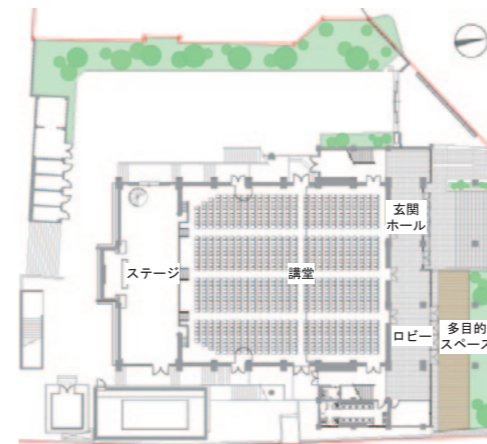
既存を活かした木のぬくもりを感じる講堂

地域との共生と記憶の継承

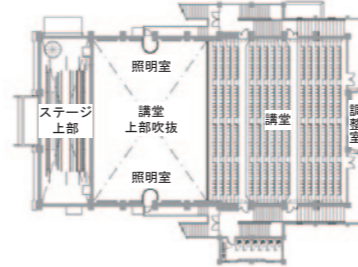
竣工当時より学園の講堂利用のほか、地域住民に対して施設を開放し、周辺住民にも親しみのある講堂として永く愛され使い続けられてきました。この「愛着」を大切に計画のコンセプトの1つとして展開することで、伝統を培ってきた卒業生や人々の思いを新しく現代に蘇らせたいと考えました。そしてこの講堂が、仏教精神の一つでもある「共生・ともいき」の理念を体現できる学園のシンボルとして次世代に受け継がれ学園と共に発展し使い続けられることを期待しています。



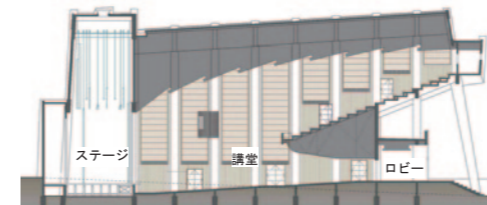
冷房時空調シミュレーション 気流[m/s]



配置図・1階平面図



2階平面図



断面図



ロシア構成主義を思わせる特徴的な外観



意匠性、機能性、快適性を兼ね備えた講堂



講堂改修前



ステージ廻り改修前



蘇る学園の心

設計担当者

建築：石原政幸、内矢雅清／構造：谷口尚範、木村誠／設備：小泉拉／電気：坂本健一、中野信哉

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (歴史性の継承)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (高効率照明機具、変风量システム、居住域空調、冷暖切り替えオートノズル)

建物データ

所在地	東京都港区
竣工年	2010年
敷地面積	14,858㎡
延床面積	1,533㎡
構造	RC造
階数	地上3階

CASBEE評価

